

及から、世界的に食料不足が現実化してくるからである。

この危機的な状況を乗り越えていくことができるかどうかは、今後二十年間にどれだけたくましく有能な「農業あと継ぎ」を育てることができ、きるかにかかっている。

★ ★ ★  
農業経営者は本当に少数になってしまつてあろうから、一人当たりの水田の耕作面積は百ヘクタールを超えるようになるかもしれない。その

ときには、現在の日本の農民が毎日やっているような周到なイネの栽培管理ができなくなることは目にみえている。平野部については、等高線上に畦をくねらせた大きな圃場に深く水を張った波つづ水田、堅い土壌、

そういう条件に耐える、たくましいイネの新しい品種が選抜される必要があるだろう。しかも味はコシヒカリのような美味をもっていなければならぬ。

そんなイネはおそらく太い強い根

を張るものでなければならぬだろう。

☆ ☆ ☆

たくましい根をもつ必要があるのは、イネだけにかぎらない。農業の保護は農家のためというよりも、食料不足に悩まされる発展途上国のために、あるいは日本の消費者のために、必要になるだろう。だがどのような保護も農業経営者の積極性と結合してこそ真に有効になる。

農業経営者自身が、男女を問わず、

広い視野と旺盛な情報吸収力と緻密な観察力と創造的な企画能力をもつ、

たくましい人間になる必要があるのではないか。また混住社会で、農業を営むには、回りからの積極的な支持が必要になる。それには自然環境と社会環境を守り、地域に太い根を張った、こころ豊かな人間になる必要があるのではないか。

問題はどつやったら、そのような大きな根つこをもつた農業経営者を育てられるかである。

## BOOK REVIEW

### 『論点 コメと食管―自由化は絶対か―』

田代 洋一 編著



「平成コメ騒動」とまで称された、昨年从今年にかけての一連の騒動について、マスコミ報道を追つてみると、昨年九月頃からの凶作報道に始まり、緊急輸入の方針を決定した九月末から十月にかけては、主に輸

入対象が、加工用米と発表されていたこともあり、コメ不足の加工食品業界への影響や、国際米価の上昇が報道の中心であった。十一月の上陸と前後して、輸入米の安全性が問題にされ始め、荷揚げされた加工用タイ米の、一部に力ビが発見されると、安全性に関する報道は一気に加熱し、あわせて一月に主食用輸入米の販売・表示方法、価格などが明らかにされるにつれ、ブレンド米への不安、特にタイ米混入への不安や、戸惑いをかき立てる報道が相次ぎ、さらに二月、三月とタイ米に関して品質、食味など多岐にわたる「負」の報道が矢継

早になされた。これらの相乗効果によつて輸入米が小売店にならぶ頃には、国をあげての大パニックとなつたのである。ところが、タイ米への批判が激しくなると、人気挽回とはかりに料理法を紹介したり、「まずい」「臭い」と文句をいっていた人の一部も「タイの農民に失礼だ」と態度を一変させた。その一方で、小売店ではタイ米の投げ売りや、放棄が報道された。

このところコメ報道は急激に縮小し、表面的には「コメ問題は決着した」かのように思われる。この間、コメに関する書物も書店に山と積ま

れ、多くの国民がコメについて多くの情報、知識を得、「コメ問題」について理解した気になった。

しかし、「コメ問題」は本当に一段落したのだろうか。私達は、「コメ問題」を本当に理解したのだろうか。

本書は、「コメ問題」に関する複雑な問題点を八つの章に分け、わかりやすく整理している。まず第一章（田代洋一稿）では、平成コメ騒動の原因は何かを、生産、流通、政策の面から明らかにしている。第二章から第四章（田代稿）にかけては、ガット最終合意案の本質とそこにある過程、日本農業への影響が検討されている。第五章（山本博史稿）では、平成コメ騒動を日本国内だけでなく、世界的視野、地球的な規模の問題としてとらえるため、マスコミ報道の恰好の標的となったタイに焦点を当て、「タイからみたコメ問題」を詳細に分析している。第六章（田代稿）では、世界規模での所得分配や不確実性などの要素を無視した、ガットの基本理念である自由貿易について大きな疑問符を投げかけ、この理念が生みだした経済不均衡、

農産物過剰、環境破壊などの諸問題について言及している。第七章（田代稿）では、前章までの検討によって行き着いた米自由化阻止という結論のために、日本が今何をすべきかを、理念的にはなく現実に即して提示している。第八章（渡辺信夫稿）は、マスコミ報道に翻弄され不明瞭になっていた「平成コメ騒動」から、私達が学ぶべき点を明確にし、特に食糧管理制度の再評価と問題点を整理している。

マスコミが「コメ問題」に決着をつけたかにみえる今日、「コメ問題」の正確な情報を得、その問題点を整理し、コメ自由化問題を、真剣に考えたいと思う方には勿論、コメの話はもう食傷気味だと感じ始めた方にもあえて本書を薦めたい。より一層の理解のためには、一九九〇年までのコメ問題を検討した、田代著『だれのためのコメ自由化か』（大月書店、一九九〇年）を併せてご参照されたい。

大月書店発行  
一九九四年六月二〇日刊  
一、五〇〇円（消費税込）



▶シンポジウムで講演された田代洋一氏

#### シンポジウム 新農政と北海道農業の針路 開催

当研究所主催のシンポジウム「新農政と北海道農業の針路」が、7月27日札幌市・KKR札幌で開催されました。基調講演は、「農政再構築と地域農業振興」と題して横浜国立大学教授・田代洋一氏が、約1時間半にわたって熱弁をふるわれました。

現場からの報告では、四辻進（稲作地帯・北竜町）、牧田正利（畑作地帯・本別町）、及川利之（酪農地帯・別海町）、田鎖忠利（市民生協コープさっぽろ）の4氏からそれぞれの現場における課題と、取り組みの経過が発表されました。その後、岩船修氏（協同組合通信社）を座長に、今日の農業の抱えている問題点に対し、約180名の参加者を交えた熱心な討論が展開されました。



▲94. 7. 27  
地域農研シンポジウム

#### 評者

日本学術振興会  
特別研究員  
（広島大学大学院  
生物圏科学研究科  
博士課程）

矢野 泉